

1 Sallen-Key 2次低域通過フィルタ

指導書図3に示す回路において、 $K \equiv 1 + \frac{R_f}{R_g}$ と定義すると図c1の様に簡略化できる。ただし、三角形でシンボ化されている素子は理想的な K 倍のアンプを表す。つまり $v_o = Kv_2$, $i_+ = 0$ とする。

まず、図に示される v_2 , i_2 , v_1 , i_1 を順に求める。それらは v_o , R_1 , R_2 , C_1 , C_2 , K のみを用いて次の様に表される。

$$v_2 = \left(\frac{v_o}{K}, \right)$$

$$i_2 = \left(sC_2 \frac{v_o}{K}, \right)$$

$$v_1 = \left(sC_2 R_2 \frac{v_o}{K} + \frac{v_o}{K}, \right)$$

$$i_1 = \left(s^2 C_1 C_2 R_2 \frac{v_o}{K} + sC_1 (1 - K) \frac{v_o}{K}. \right)$$

次に、 $v_{in} = R_1(i_1 + i_2) + v_1$ なので、上で求めた i_1 , i_2 , v_1 を代入して整理すると次式を得る。

$$\frac{v_o}{v_{in}} = \left(\frac{K \frac{1}{C_1 C_2 R_1 R_2}}{s^2 + \frac{1}{\sqrt{C_1 C_2 R_1 R_2}} \left\{ \sqrt{\frac{C_2 R_2}{C_1 R_1}} + \sqrt{\frac{C_2 R_1}{C_1 R_2}} + \sqrt{\frac{C_1 R_1}{C_2 R_2}} (1 - K) \right\} s + \frac{1}{C_1 C_2 R_1 R_2}}. \right)$$

ここで、双二次低域通過関数 (a lowpass quadratic function)

$$T_{LP}(s) = \frac{v_o}{v_{in}} = \frac{K\omega_0^2}{s^2 + \frac{\omega_0}{Q}s + \omega_0^2}.$$

と係数比較することで以下を得る。

$$\omega_0 = \left(\frac{1}{\sqrt{C_1 C_2 R_1 R_2}} \right)$$

$$Q = \left(\frac{1}{\sqrt{\frac{C_2 R_2}{C_1 R_1}} + \sqrt{\frac{C_2 R_1}{C_1 R_2}} + \sqrt{\frac{C_1 R_1}{C_2 R_2}} (1 - K)} \right).$$

また、 $s = j\omega$ を代入することで、次の振幅特性、位相特性を得ることができる。

$$|T_{LP}(j\omega)| = \left(\frac{|K \frac{\omega_0}{\omega}|}{\sqrt{(\frac{\omega_0}{\omega} - \frac{\omega}{\omega_0})^2 + \frac{1}{Q^2}}}, \right)$$

$$\angle T_{LP}(j\omega) = \left(-\tan^{-1} \left(\frac{\frac{\omega_0 \omega}{Q}}{\omega_0^2 - \omega^2} \right). \right)$$

所望する Q , ω_0 を実現する為の回路の設計法 (素子値の決定法)

は、以下の順に行えばよい:

1) 所望の Q を与えるための素子値の決定:

$R_1 = R_2$, $C_1 = C_2$ として $K = 3 - \frac{1}{Q}$ 得る。

その増幅率 K を得るための R_f と R_g のペアを決める。

(オーダーは数十 k Ω 前後 が望ましい)

2) 所望の ω_0 を与えるための素子値の決定:

C を都合のよい値として、 $C_1 = C_2 = C$ とする。

$R_1 = R_2 = R$ として、 $R = \frac{1}{\omega_0 C}$ を得る。

※ (その他の設計法)

もし、 $K = 1$ にしたい時は、以下の順に行えばよい:

1) R を都合のよい値として、 $R_1 = R_2 = R$ とする。

2) $C_1 = \frac{2Q}{\omega_0 R}$, $C_2 = \frac{1}{2Q\omega_0 R}$ とする。

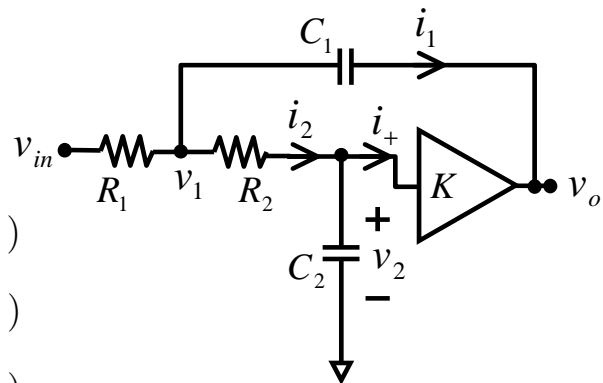


図 c 1 , 2-D Sallen-Key LPF.

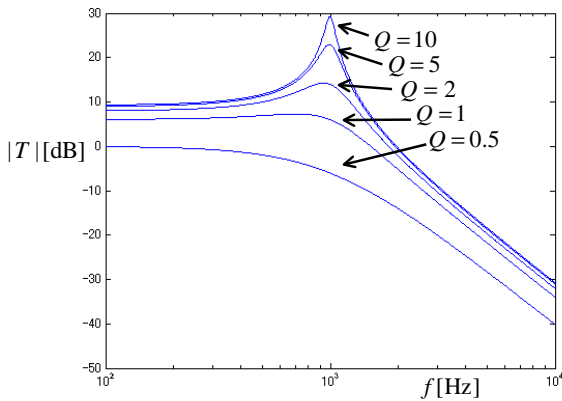


図 c2, Magnitude responses. (Horizontal axis : frequency f [Hz], Vertical axis : magnitude characteristic $|T_{LP}(j\omega)|$ [dB], $K = 3 - \frac{1}{Q}$, $\omega_0 = 6280$.)

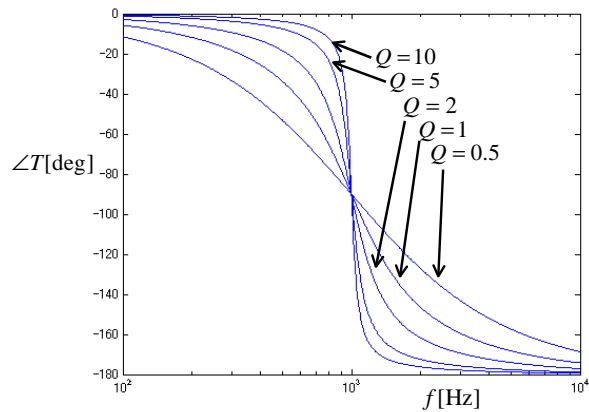


図 c3, Phase responses. (Horizontal axis : frequency f [Hz], Vertical axis : phase characteristic $\angle T_{LP}(j\omega)$ [deg], $K = 3 - \frac{1}{Q}$, $\omega_0 = 6280$.)

2 ヒステリシス弛張発振器

指導書図5の回路において, $v_{op} = E_{sat}$ となった時の等価回路は図c4の様に表すことが出来る. 状態変数 v について回路方程式(微分方程式)を導出すると次の様に表される.

$$\left(RC \frac{dv}{dt} + v = E_{sat}. \right)$$

これより, $v_{op} = E_{sat}$ の時 (つまり $-\frac{E_{sat}}{2} < v < \frac{E_{sat}}{2}$ の時) の (区分的) 厳密解は以下の様に記述される.

$$\left(v(t) = (v(0) - E_{sat})e^{-\frac{1}{RC}t} + E_{sat}. \right)$$

ここで, 図c5に示すように初期値を $v(0) = -\frac{E_{sat}}{2}$, T' 秒後の到達値を $v(T') = \frac{E_{sat}}{2}$ として, 上で求めた厳密解に代入して T' について解けば, 周期 T が求まる.

$$\left(T' = RC \ln 3, \quad T = 2RC \ln 3 \right)$$

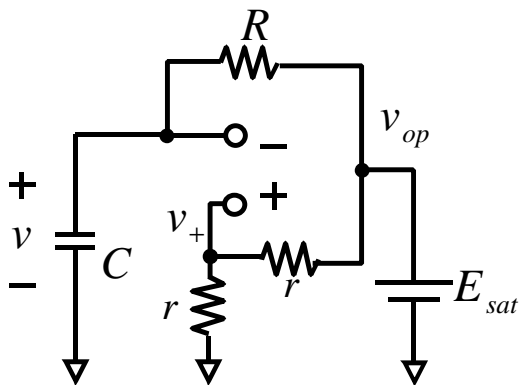


図 c4, Equivalent circuit.

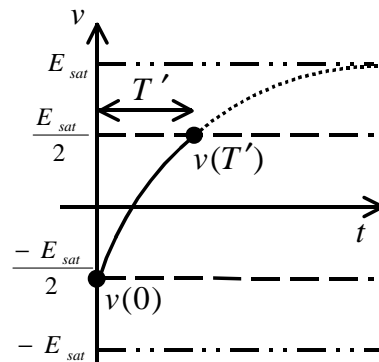


図 c5, Capacitor voltage waveform.